

高画質IPカメラの 実用と分析

IPカメラに対する要求が多くなっている中、広範な産業において多く利用され始め、IP監視システムで重要な位置を占めるようになってきた。本稿ではチェーンストア(CS)、小学校や幼稚園、道路監視などでの応用およびIPカメラの採用方法について紹介し、IPカメラの機能および技術について追跡してみる。

編集部

CSでの導入

現在のCSの営業内容は多種多様であり、スーパーマーケットやデパート、家電量販店や飲食店、薬局など取り扱い品目により経営方式が異なり、また物流、人事、資金などが集約しているため、店舗でのセキュリティは大きな課題となっている。さらに、管理や店頭の陳列、展示や宣伝などの統一化や標準化は店長の頭痛のタネとなっている。これらの問題を解決するには、IPカメラを採用したシステムを応用することで重要な解決策を見出せる。

遠隔管理、費用削減

CSには分散性があり、市街地や郊外、時には海外でも展開しており、管理上不便な点がある。ひとりで各店舗の状況を的確に把握することは非常に困難である。例えば、責任者が各店舗を定期的に訪問することは、時間や費用の面から大きな負担となるが、IPカメラの利用でこれらの問題を解決することができる。管理者は登録したホームページを開きIDやパスワードを入力

すれば、訪問することなく各店舗の現況やスタッフの状態、商品の陳列状態また客足などを瞬時に確認することができる。さらに、IPカメラの遠隔音声機能を利用して会話することも可能で、映像閲覧だけの片側方向でなく相互通信が可能となる。これにより管理者の利便性は高まり、CSの管理効率は大きく改善する。

標準化された店舗と展示陳列方式

CSの営業では、陳列や案内図、配送やサービスなど統一された店舗運営となっていて、IPカメラを利用することで、店主や管理者が必要なときに各店舗の状況を明確に確認することができる。さらに、各店舗間の相互学習や交流機会を持つことも可能となる。近年の経済発展に伴い商品の同一化により競争が激化しているが、これはCSでも例外ではない。この激しい競争の中で商機を見出し、サービスで差別化することが重要となっている。そこで、多くの企業は商品およびサービスの透明化を図り、IPカメラ経由で店舗内の

商品位置を確認するだけでなく、顧客にカメラのIDやパスワードを公開して店舗内の様子を自宅から確認できるようにすることで、顧客の支持を集めることもできる。このようなIPカメラを利用した消費者との交流で、店舗の様子を消費者に公開することが、店舗または企業にとって有効な宣伝となる。

監視管理が軽減

CSは分散して立地していて大半が中小規模の店舗のため、すべてを集中管理することは容易ではない。しかし、IPカメラの登場でCSにとって大きな問題が容易に解決できた。遠隔監視や各種録画設定や警報などの機能により、CS展開する企業に大きな利点をもたらした。店舗は防犯設備の設置が不要となり、IPカメラを設置するだけでどこにいてもどの店舗でも確認することができるようになり、仮に異常事態が発生しても、高度分析機能によりIPカメラ経由で警報を伝送して自動でその状況を録画するようになった。これによ

り、店舗責任者や経営者は事後の把握が可能となり、他のシステムでは得ることができない価値を獲得できる。

小学校、幼稚園の可視化

セキュリティに対する概念が広まり、多くのシステムが独自のシステムを紹介するようになってきた。学校は教育の場という非常に重要な場所であるため、学校と家庭とを結ぶ交流や理解の向上が求められている。保護者が学校での子供たちの様子を把握することができ、そして学校と保護者が協力して子供たちの教育に役立てることができるという可視化サービスが求めら

れている。そこで、IPカメラと携帯電話の活用で、保護者は常に子供たちの学習状況や多くの校内活動を見ることができ、家庭と学校の協力そして子供たちの安全に寄与することができる。

道路監視

伝統的なアナログ監視カメラは非常に成熟しており、高速道路では非常に多く用いられている。しかし、高速道路の拡張が続き、高速道路でのカメラ映像による現場監視のネットワークへの要求が高まってきている。管理センターに情報が送るだけでなく、地区センターにも映像情報を送ることが必要



となっている。映像技術も向上し帯域幅も拡大し各部門の要求も増加して、遠隔地で常に高速道路の状況を把握することが求められていることから、監視システムのIP化は必然となり、ネットワークへの接続を要求している。基本的なネットワークは整備されているので、政府は映像を保存しておく記録装置だけを設置することで、管轄機関の責任者が事務所内でいつでも現状を明瞭に把握できる。

A&S

投稿募集中！

セキュリティシステム 設計、施工事例集

具体的な事例紹介は、システム導入を促進する最良の方法です。また、企業イメージを高める上でも大きな効果があります。本誌編集部では、セキュリティベンダー各社からご提供いただいた具体的なシステム設計や施工情報について、内容を確認後本誌に掲載します。

なお、事例紹介では下記の点にご留意ください。

A 事例内容

事例概要	事例名称、導入場所、事例の目的、システム設計企業、施工企業など
事例背景	ユーザーの要望、工事規模、工事期間および完工時期
到達目標	具体的にお願いします。
システム内容	システムの主要機能、特に配慮した項目、システム構成図
導入結果	導入効果、評価、今後の課題または目標

B 導入製品関連事項

導入製品	特性の簡単な紹介
製品導入	システムに関する情報(システム図、統合)
注意項目	※原稿は、テキストファイルあるいはWordでお願いします。 ※画像は、最低3枚以上ご用意ください。 ※上記をreader@asmag.jpまでお送りください。 ※掲載許諾権は当社編集部に帰属します。

詳しくは下記までどうぞ

A&S JAPAN 編集部 電話 03-3556-3912 Eメール reader@asmag.jp